



TITLE:

第7号の刊行にあたって

AUTHOR(S):

遠藤, 利彦

CITATION:

遠藤, 利彦. 第7号の刊行にあたって. 教育方法の探究 2004, 7: i-i

ISSUE DATE:

2004-03-31

URL:

<https://doi.org/10.14989/190299>

RIGHT:

第7号の刊行にあたって

遠 藤 利 彦

2004年4月、ついに独立行政法人としての京都大学が歩み出した。事務手続きのフォームから生協での物品購入に至るまで、一つひとつは実に微々たる変化ではあるが、その無数の重なりは確かなボディブローとなって私たちの精神的膂力を日々、摩耗させている。本来、教育と研究とに向かわなくてはならない視線も、不穏に忙しなく揺動する“制度的景色のざわめき”の前に、あてどなく宙をさまよいがちになっている。しかし、完成した『教育方法の探究』第7号は、そうした、私たちのどこか落ち着かない“上の空”的気分を振り払ってあまりあるものに仕上がっている。制度がいかに変容しようと、学知を極めようとする学生諸君の精神的昂揚に特に変わりがないことを確認して、自らの身を清く洗い引き締めなくてはならないという思いにただただ強く駆られるばかりである。

論文の内容が多岐にわたることは、この『教育方法の探究』のいわば伝統的な特質とも言えるものであるが、本号はこれまでも増してその多様性の幅を広げているかに見える。このことは、教育方法学講座の学生諸君が、旧来の教育方法や発達教育という狭い学問的線引きの中に止まらず、そこから一步も二歩も踏み出て、大胆かつ積極的に異種領域との実り多き架橋を模索していることの一つの証であると解し得る。また、それは、日々変わりゆく教育や発達の各種現場にしっかりと根ざしながら、そこから現今の社会的ニーズに応え得る活きた学術的テーマを開拓しようとすることの半ば必然的な結果であるとも言えるのだろう。

しかし、新しい芽が豊熟の実をつけるまでには、長い時間と至適の風土を要する。願わくは、この教育方法学講座の研究室が、学生諸君の気鋭の試みをじっくりと時間をかけて涵養する、地力に富んだ土壌であり続けることである。その意味からすれば、この4月からカリキュラム論や教育評価論等をご専門とする西岡加名恵先生を新たな教育スタッフとしてお迎えすることができたことは、本講座にとってこの上なく心強きことと言える。もっとも、肥えた土地だけが新芽の確かな成長を支える訳ではない。時には、外からの厳酷な風雪や容赦のない日照りこそが、よりたくましく幹をつくり、滋味豊かな実を多く実らせるということもあるだろう。いかなる形であれ、収録された論文に対して、ご批判やご意見など、偽らざる率直な声を多数お寄せいただければ幸いである。